蟹 江 町 歴 史 民 俗 資 料 館

年　報

第 42 冊

令和３年１１月

蟹江町歴史民俗資料館

目　次

Ⅰ　歴史民俗資料館概要 …… 1
1　沿革 …… 1
2　施設概要 …… 1

Ⅱ　歴史民俗資料館事業 …… 2
1　新型コロナウイルス感染症拡大の影響について …… 2
2　展示 …… 3
（1）常設展示 …… 3
（2）特別展示 …… 3
（3）企画展示 …… 4
3　教育普及 …… 5
4　資料の収集・保管 …… 15
（1）収集資料の特色 …… 15
（2）収蔵資料の状況 …… 15
5　調査・研究 …… 17
6　情報提供 …… 18
7　利用状況 …… 18

Ⅲ　文化財保護事業 …… 20
1　文化財保護審議会 …… 20
2　文化財保護等事業費補助事業 …… 20
3　文化財公開事業 …… 20
4　文化財普及・啓発事業 …… 21
5　文化財保存活用地域計画作成事業 …… 22

Ⅳ　資料編 …… 24

「古文書を読む会」テキストより和宮下向関係文書（「鈴木家文書」）について

「鈴木家文書」は、平成二三年に蟹江家（旧鈴木四郎左衛門家）から当館へ寄贈された、江戸時代から明治時代の古文書を中心とする約六〇〇点にわたる史料である。この中には和宮下向に関連するものが二五点含まれており、そのうち三点を令和元年度および二年度のテキストとして使用した。今回はこれらの史料について、原文書の写真および翻刻文を掲載することとした。なお史料の翻刻にあたっては、「古文書を読む会」講座の講師である藤井智鶴氏にご協力をいただいた。

和宮下向と鈴木家との関わりについて、現時点では史料に記されている内容や人物関係等については不明なところも多いが、和宮下向への対応や生活への影響などを断片的ながらも知ることができる。今後はこれら史料を足掛かりとして、さらなる調査を進めていきたい。

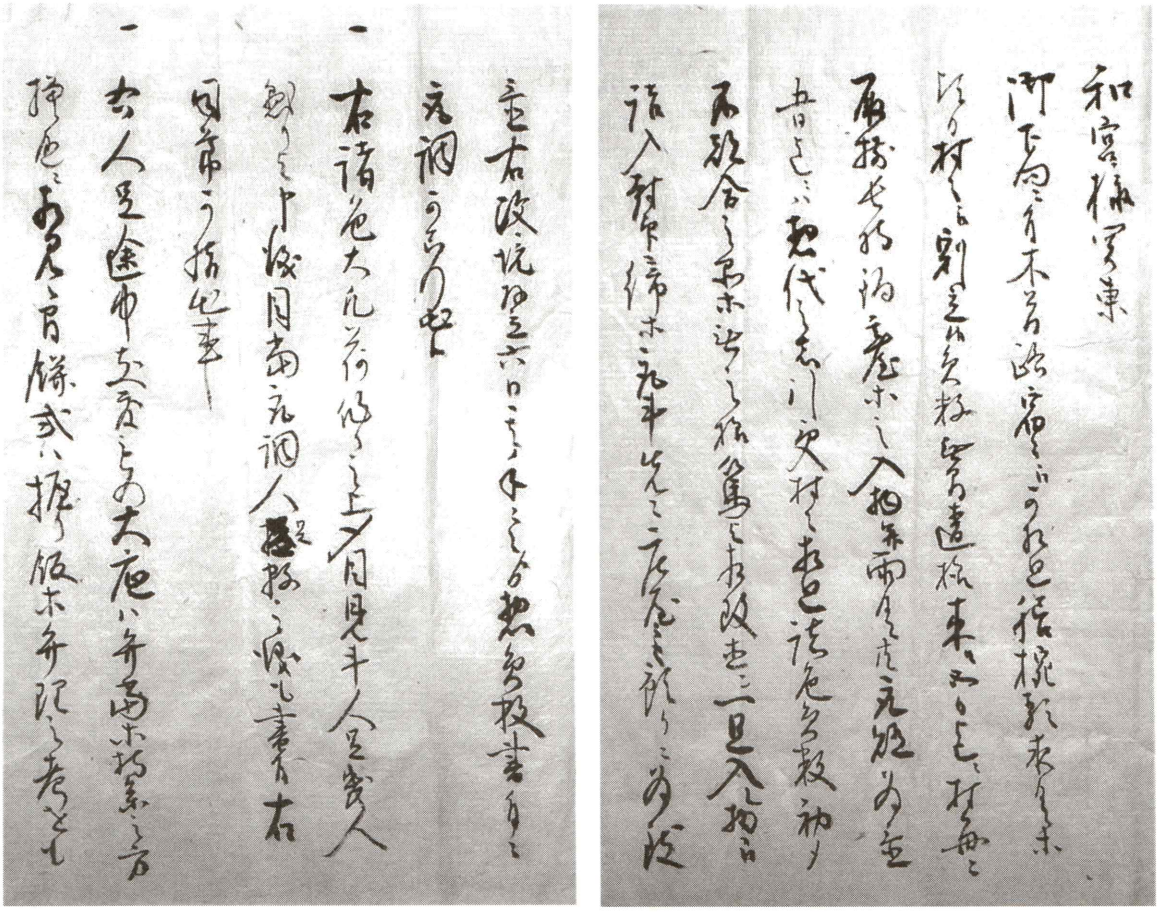
なお、鈴木家および和宮下向については、以下の通りである。

① 鈴木家について

鈴木家は戦国時代から江戸時代にかけて蟹江本町村（現蟹江町城）に屋敷を構えていた。同家の「由緒書」および「鈴木系抜鈔」によれば、鈴木家が蟹江に居住するようになったのは天正一〇年（一五八二）であったが、永住する契機となったのは天正一二年（一五八四）の「蟹江合戦」である。この「蟹江合戦」とは、織田信雄・徳川家康連合軍と羽柴秀吉軍との間でおきた「小牧・長久手の戦い」における蟹江城をめぐる一連の戦いのことである。

蟹江城主佐久間正勝（信栄）の親類であった鈴木重安・重治の兄弟は織田・徳川方として参戦し、蟹江城が秀吉方の滝川一益軍に攻撃され、兄・重安は城を守るため討死、弟・重治は家康に蟹江が攻撃されたことを伝える功績を立てた。蟹江合戦の後、生き残った重治はこれらの活躍により家康から褒美を賜り、蟹江に屋敷を再建したのである。また、このとき家康から仕官の誘いをうけるも、これを丁重に断ったとされる。

史料1　（和宮下向につき諸色・人足等達書写）



和宮様関東
御下向ニ付、木曽路宿々江可ニ相廻一膳椀類夜具等
頃日村々江割立候員数無ニ間違一様来ル五日迄ニ村毎ニ
取揃、長持釣台等之入物并雨具共取賄為置、
五日迄ニハ惣代之者引受、村々相廻諸色員数初メ
不都合之品等無レ之様篤と相改、直ニ一旦入レ物江
詰入封印締等取計、先々庄屋々々預リニ為致
置一、右改境翌六日其手々々方惣員数書付ニ
取調可ニ差出一候
一右諸色大凡荷作り之上、貫目見計人足幾人
懸りと申儀目当取調、人足数之儀も書付、右
同節可ニ指出一事
一右人足途中支度もの大底ハ弁当等持参之方
模通ニ相見候間、餅或ハ握り飯等弁理之考をも（便利）